

News Letter

ニュースレター

- 活動報告
- ベビーシッター料金の利用費補助（内閣府）を利用してvol.1（西村珠子助教）
- アカデミックアシスタント制度を利用してvol.9（小牧伸一郎助教）
- 一時託児サービスを利用してvol.2（須藤克仁准教授）
- スタートアップ研究費を受給してvol.12（西村珠子助教）
- 一時的休養・搾乳等のための休憩室をオープン
- 領域主催イベントでの一時託児費用助成制度
- 本学の男女共同参画に関するデータ

活動報告 2018年11月～2019年2月

2018年12月27日

第11回男女共同参画セミナーを開催しました

2018年12月27日、第11回男女共同参画セミナー「『無意識のバイアス』とジェンダーに基づいた論文業績分析報告」を開催しました。学長による開催挨拶の後、大坪 久子氏（日本大学薬学部薬学研究所 上席研究員）、芦田 仁氏（エルゼビア・ジャパン カスタマーコンサルタント）による講演が行われました。大坪氏は、「無意識のバイアス」概念の説明とその影響に関する多くの事例を紹介され、今後、組織・機関が人材の採用や育成・昇進における客観的評価をすすめるためには、統計調査の継続実施によるデータの可視化等が重要であると講演されました。続いて芦田氏には、12の国/地域で発表された学術論文について分析した報告書（Gender in the Global Research Landscape）の概要報告と、本学の研究者500名による研究アウトプットの男女別検証結果の一部をご紹介いただきました。

32名（学内26名、学外6名）の方々にご参加いただき、終了後のアンケートでは、内容が有意義だった（95.4%）との感想を寄せていただきました。



2018年11月9日・10日

IEEE WIE International Leadership Summit 2018 Tokyoに参加しました

IEEE WIE (Women in Engineering) はテクノロジー分野で活躍する女性技術者・研究者の自立と連携を支援する団体です。2018年11月9日・10日、この団体の日本支部が主催した国際サミットに参加しました。

本学からは3名が参加し、Parallel Session [Track 2] Empowermentにて、Kansai WIE Session: Essence for the Joy of Science, Technology and Your Life!のモデレーターを務めました。また、参加したプログラムを通じて、工学系大学や各企業における女性のキャリア形成に関する情報収集を行うこともできました。



2018年11月11日・2019年2月23日

高山サイエスタウンフェスティバル（11月11日）



大学会館1階多目的スペースに休憩スペース（授乳・おむつ替え）を設営しました。3年目となる今回は靴を脱いでくつろげるスペースを設け、飲食もできるようにしました。多くのご家族の利用がありました。

受験生のためのオープンキャンパス（2月23日）

女子大学院生の研究生生活紹介webページを開設し、2018年12月21日からの約2ヶ月間で2300ビューを超えるアクセスがありました。



<http://www.naist.jp/gender/contents/message/student.html>

一時託児を実施しました

両日とも教職員向け託児を実施し、お預かりしたお子さまたちは、ゲームやおままごとで遊んだり、お昼寝をしてゆったりと過ごしました。



2018年11月15日

第2回「オープン道場カフェ@けいはんな」に協力しました

2018年11月15日、けいはんなオープンイノベーションセンター（KICK）にて第2回目の「オープン道場カフェ@けいはんな」（公益財団法人京都産業21主催）が行われました。「本学の教員らが世話人を務める「けいはんな女性研究者ネットワーク」は今回も企画やファシリテータとして協力しました。

このイベントは、女子学生とけいはんなの女性研究者・技術者をつなぐことを目的としたもので、今回は男性も含めて47名が参加し、女性研究者の講演、高校生から大学院生までの各チームの活動報告、そしてフリートークを楽しみました。



Interview

～各種支援制度を利用して～

ベビーシッター料金の 利用費補助(内閣府)を利用して

vol.1

バイオサイエンス領域
分子医学細胞生物学(末次研)

西村 珠子 助教



ウェブサイト
「それぞれの働き方」
vol.16もチェック!

平日夕方の保育園と自宅間の送迎と、帰宅後のお世話をお願いしました

私は自宅のある神戸から通勤しているのですが、着任した当初は子どもが保育園に通っており、お迎えの時間までに迎えに行くことができなかったため、平日夕方の保育園と自宅間の送迎と帰宅後の世話のため、ベビーシッター料金の利用費補助(内閣府)を利用させていただきました。男女共同参画室には、シッター会社をどこにしたらいいか等をご相談させていただき、大変ありがたかったです。本制度を約1年間利用させていただき、大変助かりました。

子どもは今年度4月より小学校に入学しましたが、やはり学童保育の夕方の迎えには間に合いません。公立の学童保育は子どもの送迎は当然してくれませんが、気象警報が出るとすぐに閉所したり、夏休みの預かり時間が短かったり、これではとても働きません。そこで、学童と自宅間の送迎、長期休暇中の保育、気象警報や学級閉鎖時の対応もしてくれる私立の学童保育に入りました。ただ、とてもお金がかかりますね。家庭によって事情はそれぞれなので難しいかもしれませんが、小学校に入ってから学童保育利用に関する経済的な補助があればありがたいと思います。

アカデミックアシスタント 制度を利用して

vol.9

バイオサイエンス領域
植物細胞機能学(橋本研)

小牧 伸一郎 助教
AA 中原 富美子 さん

2018年4月より本制度を利用しています。アカデミックアシスタントの中原さんには、植物の管理と実験補助を担っていただいています。植物系のラボでは種を撒いて採集するというルーティンワークがどうしても必要になるのですが、それを助教の業務をしながらやろうとすると他の仕事が回らなくなるため手伝ってもらっています。



中原さんはテクニシャンとして企業や大学で働いてこられた方ですが、やはり最初の何ヶ月かはお互いの意思疎通に時間がかかりました。今はそれも円滑になり、毎朝実験内容をお伝えして、橋本研の業務と、男女共同参画室の本制度で従事いただく私の実験補助の両方に従事してもらっています。

昨年度までは、保育園のお迎えにいて子どもを自宅に連れて帰り、帰宅した妻に託したあとにまた職場に戻るということをよくしていましたが、本制度を利用し始めてそれが少なくなったことは大きな変化だと思います。一度帰宅して遊び始めると子どもは職場に戻って欲しくないものですよ。普段から早く帰宅できるようになったことはもちろん、夜に家から職場に戻る回数が減りました。



ウェブサイト
「それぞれの働き方」
vol.15もチェック!

一時託児サービスを利用して

vol.2

情報科学領域
知能コミュニケーション(中村研)

須藤 克仁 准教授

本サービスについては、全学配信のメールで知りました。2017年4月に着任しましたが、11月のオープンキャンパス以降毎回利用しています。大阪にある自宅から本学までは一時間近くかかるのですが、子どもも嫌がらないので毎回いっしょに電車に乗って来ています。大学に着いたら、預ける時間まで研究室にいて、預けた後もまた研究室に戻って帰る時間までを過ごしています。



普段の保育園の送り迎えは一部私も分担していますが、やはり育児に関しては妻に圧倒的に負荷がかかっています。土日に妻の用事が入ると私がおの間面倒をみるわけですが、オープンキャンパスのときはそれができません。それならば、私が子どもを大学に連れてくるのはたいへんではないし、オープンキャンパスの一時託児にはありがたいことにお金もかからないので利用させていただいています。職場に子どもを連れてくることで中村先生や学生に会ってもらえる機会にもなっていると思っています。

一時託児では、お迎えのときにシッターさんがその日のことを報告して下さいますが、預かる子どもの人数がそれほど多くないからか、たくさん面倒をみてもらっているみたいでありがたいです。送り迎えのタイミングは他の保護者も同じなので、情報領域の知っている先生方に会ったりしました。みんな上手く活用しているのではないかと思います。



WEBサイト
「それぞれの働き方」
vol.17もチェック!

スタートアップ研究費を受給して

vol.12

バイオサイエンス領域
分子医学細胞生物学(末次研)

西村 珠子 助教



2017年5月に本学に着任したのですが、研究室には必要な実験機器がほぼ揃っていませんでしたので、本制度の助成は研究用ノートパソコンや試薬等の購入に主に使わせていただきました。例えばプラスミド構築のためのプライマーや、細胞染色のための試薬を購入しました。このように本助成によって、私にとって使いよい試薬を購入できたり、少し経費のかかる実験を遂行できたりと、実験を円滑に開始できたことはありがたかったです。

本制度があることを着任前に男女共同参画室からお知らせいただいた時は、私の本学へ着任をウェルカムしていただいているように思えましたし、ラボにおいても研究を進める上での原動力になったと思います。また、本制度の申請書を書く過程で、本学で最初に取り組むテーマや目的、助成期間終了時の1年後の目標を設定できたこともよかったです。着任後の1年はあっという間に終わってしまい余裕がなかったため、2019年度より助成期間が1年から2年に延長されたのはよかったです。



WEBサイト
「それぞれの働き方」
vol.16もチェック!

男女共同参画室WEBサイトで連載中

本学で活躍する研究者へのインタビュー「それぞれの働き方」

<https://www.naist.jp/gender/contents/message/interview>



Information

男女共同参画室からのお知らせ

男女共同参画室は、利用者の活躍に支えられ、本学構成員の仕事と生活の両立を支援する各種制度の充実に、多角的に取り組んでいます。

一時的休養・搾乳等のための休憩室をオープン

2018年12月より、妊娠中および乳幼児を子育て中の研究者や学生がプライバシーの保たれたスペースで休養できるよう、各領域棟に恒常的な女性専用休憩室を整備しました。

本学の女性教職員・女子学生は下記の目的で利用することができます。

- 体調が優れない等の理由での一時的休養（月経期、妊娠中、出産後など）
- 搾乳・授乳等

男性教職員・男子学生でパートナーの方が利用する必要がある方は、各自お問い合わせください。



情報科学領域 A棟2階



情報科学領域 B棟2階



バイオサイエンス領域 1階



物質創成科学領域 F棟1階

休憩室の利用方法

防犯のため、常時電子錠で施錠しています。利用を希望される方は、申請フォームより登録申請をしてください。電子錠では、お手持ちのスマートフォン等で解錠・施錠をしますので、ご利用の際は、専用アプリのインストールと、男女共同参画室が配信する合カギ情報が必要になります。

詳細はURLをご覧ください → <http://www.naist.jp/gender/contents/support/kyukei/>



申請フォーム

2019年2月現在

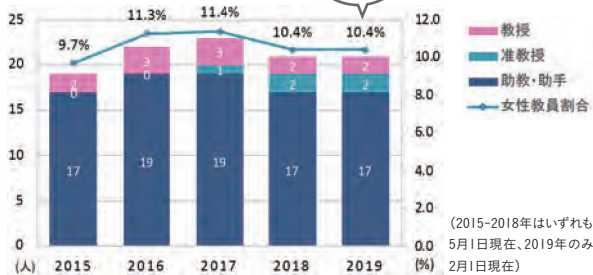
数字で見る

男女共同参画

研究領域別の女性教員率

情報5.9%、バイオ15.1%、物質10.9%
その他7.1%

本学の
女性教員率
10.4%



領域主催イベントでの一時託児費用助成制度

各研究領域が主催する各種イベント（学会、会議等）に参加する教職員・学生の子どもの一時託児費用の半額を助成します。詳細は男女共同参画室にご相談ください

利用手順

イベント主催者が事前に男女共同参画室に連絡の上、託児場所の決定や利用者の募集を行ってください。託児業者への支払いは、研究領域と男女共同参画室で50%ずつ負担します。

利用場所

イベント会場に設置する託児スペース、あるいは本学託児室「せんたん」

イベント会場の託児スペースに設置するクッションマット、絵本、おもちゃ等及びベビー布団一式を男女共同参画室より貸出できます。



詳細は下記のURLをご覧ください。

http://www.naist.jp/gender/contents/support/kenkyu_child_care/